

研究課題名	Indocyanine green 蛍光イメージングを用いた肝胆膵手術の有効性の検証
研究の意義・目的	Indocyanine green (ICG) は主に肝機能検査用の試薬として日本で50年以上臨床使用されてきた医薬品ですが、近年その近赤外蛍光特性を利用した術中ナビゲーション技術が臨床導入されています。肝胆膵外科領域では、ICGの胆汁排泄性と蛍光特性を活用し、胆管や肝腫瘍の同定および肝血流を可視化することによる肝区域境界の描出に活用されています。ICG 蛍光イメージングの有効性を示唆する論文報告も増加しているものの、依然そのエビデンスは十分とは言えません。本研究の目的は、肝胆膵手術における ICG 蛍光イメージングの有効性を、その用途と患者の背景因子、手術成績、および病理組織所見とを詳細に対比することで検証することです。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～2027年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2010年4月～2027年3月の間に大阪公立大学医学部附属病院の肝胆膵外科で、肝胆膵手術を受けている又は受ける予定である方が対象です。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ① 患者基本情報：年齢、性別、診断名、背景肝疾患の有無 ② 血液検査結果：赤血球数、ヘモグロビン、白血球数、血小板数、AST、ALT、血清ビリルビン、血清クレアチニン、血清尿素窒素、血清アルブミン、プロトロンビン時間、ICG15分停滞率と投与のタイミング ③ 手術情報：手術時間、出血量、蛍光イメージング画像、術後合併症の有無、術後在院日数、 ④ 病理学的診断：腫瘍の組織型分類、切除マージン
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院肝胆膵外科のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院肝胆膵外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 研究責任者 石沢 武彰
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵外科学 (担当者氏名) 木下 正彦 電話番号：(06) 6645-3841 メールアドレス：p21752h@omu.ac.jp